



# 園だより

第9号

平成31年1月7日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

## 新しい年を迎えて

新年 あけましておめでとうございます。

冬期休業日はいかがお過ごしでしたか。クリスマスには、子どもたちが作ったツリーやリースを飾っていただきましたでしょうか。また、ご家族おそろいでお正月ならではの楽しい一時をお過ごしになったことでしょうか。

新年を迎え、幼稚園でもお正月遊びを先生や友達と一緒に楽しんでまいります。カルタや双六は、文字や数への関心を高めます。ルールを守り、友達と競って遊ぶ楽しさを味わいます。そして、いちよう会からいただいたコマも楽しめます。それぞれの発達に合わせた手びねりコマ、引きゴマ、投げゴマは、子どもたちにとって簡単に遊ぶことができる遊具ではありません。回るまでくじけずがんばる力、そして回せた時には達成感や自信が身につきます。友達と教え合ったり、できたことを喜び合ったりする中で人間関係が深まり、コマ遊びを面白くしていこうと工夫し夢中になって遊ぶ中で、思考力も芽生えていきます。とても楽しみです。

新たな年を迎え、子どもたちが豊かな学びができるよう今年も教職員一同努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度、保護者の皆様のご意見を基に検討を重ね、土曜日保育を月2回から1回とするとともに、学期末の保育時間を改善しました。昨年までは、学期末子ども会前の数日を半日保育とし、子ども会終了後すぐに冬期休業日に入っていました。半日保育を平常保育にしたことにより「学期末子ども会のしおり」でお伝えしたように、各学級とも充実した教育が実践されました。舞台上がって演じ、友達や保護者の方々に見てもらった経験は子どもたちの自信につながり、子どもたちが一回り大きくなった気がします。そして一週間の保育期間があったことにより、劇遊びで楽しんだ大道具や小道具をごっこ遊びの中に使いより遊びを発展させたり、劇で出てきた縄跳びやなべなべ底抜けを友達と一緒に楽しんだり、他学級の劇の役を真似して楽しんだり……と、子ども会の経験を基により遊びを楽しむ姿が見られました。子どもたちが自ら遊びだし、楽しみながら確かな学びを身につけていくためには、仲間、時間、空間という“三つの間”が大切です。進級・進学を前にした3学期は、大変慌ただしい学期ですが、“三つの間”を十分に保証した教育を行ってまいりたいと思います。

そして、今年も1月中に、保護者の皆様に今年度の教育について「学校評価」をお願いいたします。いただいた評価やご意見を全てそのまま取り入れさせていただくことはできないかもしれませんが、本園の教育をますます充実させていくために、皆様のご意見・評価をいただきたいと思います。ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



年長児は、保護者ボランティアの皆様から葉を取っていただいたサツマイモのツルでリースを作りました。乾いたツルにそれぞれ工夫してリースの飾りをつけました。



年中児は、園外保育で拾ってきたマツボックリを着色し、ビーズや毛糸等で飾りをつけてクリスマスツリーを作りました。



年少児のパン屋さんごっこ。劇の大道具や小道具を使い、ごっこ遊びを楽しみました。



年中児は、劇に出ていた大回しや一人跳びだけでなく、友達と「縄をくぐり、飛び越える」新しい縄遊びも楽しんでいます。